

★東日本大震災連合救援ボランティアに参加しました！

7月3日(日)～9日(土)、東日本大震災による津波等で壊滅的な被害を受けた岩手県釜石市での災害ボランティア活動に、連合と基幹労連からの派遣要請により、当ユニオンから坂本さん(本社・研究所・大阪ブロック)と川端が参加しました。また、神鋼連合加盟組合からは当ユニオン以外に神鋼鋼線工業労働組合の2名が参加し、基幹労連全体として総勢25名によるボランティア活動を行ってきました。



▲参加した川端(写真左)と坂本さん(写真右)

作業内容は主に、被災された住居からの瓦礫、家財、土砂等の撤去と震災用瓦礫捨場への搬送および屋内洗浄と清掃です。宿泊先である東和町のベ-

スキヤンプ(3月末で廃校となった小学校を利用)から釜石市まで毎日バスで1時間半かけて移動し、活動に当たりました。最初に釜石市街の風景を見たときの感想は、釜石駅付近は平然たるものでしたが、川を1本渡ると1階はほとんどの建物が全滅、ガソリンスタンドも柱と屋根が押し倒されており、津波の威力を目の当たりにし、言葉が出ませんでした。

1日目に活動した鉄骨3階建の飲食店では、津波の跡が2階天井付近まであり、外部ALCは剥がれ、無惨な姿になっていました。ここでの作業内容は、一部残った家財を屋外に出し、高压洗浄器で壁や床の汚れを浮かし、デッキブラシで擦り、再度水で洗い流し、雑巾で拭き取ると言った具合です。作業の始めは要領がわからないのと各メンバー各々の遠慮が重なり、なかなか作業効率が上がらなかったのですが、徐々に方向性が見え出すとそれぞれがやるべきことを考え、リーダーの指示の下、効率的に作業を進めることができました。25名が集まると1日あれば大体の作業は終了し、一人ひとりが協力してそれが結集された力というもの凄さを感じました。



▲被災した住居からの瓦礫等の撤去作業状況(4日目)



▲作業終了後の屋内

どこの現場でも、作業終了後は必ず被災された家主さんから「有難うございました。」と心からお礼を言っていました。1日目の飲食店のお母さん(ママさん)からは「有難うございました。次に皆さんが来られたときには店を開けているので、是非寄って下さいね！」と言っていました。お礼を言われるためにこの活動に参加したわけではありませんが、「有難う」と言われる度に、やりがいを強く感じ、来て良かったと思うことが出来ました。

復興支援は現地でボランティア活動をするだけでなく、カンパや被災地の物産品を購入する等、遠く離れていても出来ることはまだまだたくさんあります。みなさんが、少しでもその様に感じていただけたらうれしく思います。16年前、私たちは日本全国からの支援により、阪神淡路大震災による壊滅的な被害から復興を成し遂げました。こんどは私たちが東北を支援する番です。一緒に悲しむのではなく、私たちが出来ることを一生懸命にやりましょう！！ (ユニオン 川端 健 記)

-----END-----